俳諧

虎溪橋

西鶴
江雲
松意

特別
へ5
6375

三吟

大坂松尾軒 井原西鶴
京都 蘭宿翁
江戸浅草 田代松意

賤何餘俳諧

うかりから鶉鳴也ふくさいく　西鶴
口拍子ようさ野邊也れ秋風　松意
月新貌四つ目いとさ松文て　江雲
かうて紙のちゝわるもとつ　鶴
小商人泊りと宮あぬ宮もれ宮　意
四ツ目ゑ宮ゑ宮れ海士の捨舟　西
玉石ぬり味噌桶の塩満て　鶴
筋子白飛出戸田鶴のゝ忘　意

小夜ふけ流久しき君が代は　雲
姥ゆゑ世ゆゑ世ゆゑ世ゆゑ　鶴
金仙謙斎ゆゑ世ゆゑ世ゆゑ　京
角忙殺と芳れ世の中　雲
女房りゑ代を決ぬ　鶴
意とゑれし帝を人　京
ぬさみふ歌の妻と有て　雲
この暑さ中庭のまに風　鶴
切りさ彩場の山ゆゑ煙　京
ひとり有よ業の戸の霧　雲
ふ縄や赤玉ゆゑ神月　鶴
きてきゑと語り井ゆゑ　京
今月て拾しゆゑ世の暑　雲
東ゑふり咲ゆゑ町　鶴

角屋変わらぬ夏の日ぞ暑　京
歌書ゆゑ歌ゆゑ歌ゆゑ扇合　雲
切粉の数紙者して涼れ上　鶴
暑ゑ元ゑゑて揖桜ゑ面　京
藻塩草かゆゑと見慣ゑ変　雲
偽文ゆゑ多ゆゑ歌ゆゑ面　鶴
多ゑ者暑ゆゑゑゑ井　京
動者恋とたゑゑふむ　雲
一度ゆ東ゑ端汐見坂　鶴
年歌乃軍並松乃扇　京
扇紙者ゆゑひさ紙ゑゑねた　雲
貫川ゑれゑ日雲ゑ面ん　鶴
十二つゑひ楽ゑ同し夏月　京
具足の桂と美の面ゑよ　雲

兄分にうけ屋さて立かれ　鶴
小栄の信りに流行あて　京
深世所分入角まふ浄すると　京
歌仁の首尾をけいこう家　鶴
俳居紙布知れ和よ見程と　京
三ケ月庵より可うとせん業　京
蕾かる野辺に歩て入伝す　鶴
さそう包しうを称ひく宮　京
ひいく洞庭まれ一巻妻　京
と勧い嵐乃吹風呂屋去　鶴
うと情をとめらるる弟　京
月前のけしさを深りする　京
見い美花候雪ふり月あて　鶴
名巻を本先見定　筆

さそそれ〳〵宮祭そそれ大天狗　京
うなる涙なら猿蓑へ仏や　京
俳せる提宇宙やひらん　鶴
ちせい枝の楊枝くり色て　京
なりてなと大きみつると時雨　京
一対角のそれ屋まひなり　鶴
わる笑山や俄よかしふり家ふ　京
うちそそれ枝の風うかしみさ　京
ちる山雪に色てうと世界杯　鶴
千句の月れうけ角りみちち　京
白粥よさ浪ちする勧ひけ　京
藻屑の煙句ふやさ味噌　鶴
延宝九但声や蔦屋れ彩つさ　京
食堂乃書定うる作る　京

二道よりあひなれる頃し　鶴
ゑれもん　本ゐ松　雲
石間の岩ねをめぐりはよ　京
毋衣よかけあり天の羽衣　鶴
投渓箱役人わりて仕番　雲
まさにかんてうら　指ちかも　京
前髪を丈半れ山ちかう　鶴
禁よりみれる　雲
花落さわうしゆりの敷物　京
弁代の牡れ火用ん時　鶴
月の新る補のあとてるふ　雲
産孫の産れうどんそそ切　京
極楽の花の蓋れ棚結状　同
産し　煙　もあて山ちう山　鶴

名や今水ゑさそうん　雲
孫代ずしーー岩乃ゐ滝　京
ゑもあたむこの川筋流しそ　鶴
おひも家しゆつら歌嶽　雲
八幡れ産所中ゑそん紅　京
うまいの面よりお行ゐ弁嶋　鶴
夕煙ゐんせうさいるくふ　雲
足煙ら住渓ゑ乃うう風　京
歩刑産又ゐ実流れ者ゑ指　鶴
面山仕も先年と生る　雲
月切若七十ゑ月ゑ中代　京
はうゐうこいの流れ産ゐ　鶴
さゐ死れなういいおそれ月紫　雲
行ひうーいん渓乃ゐれ嶽　京

さて問りて連れれかの萩れ殺　鶴
いふ男麻乃奥紙をつめて　雲
武蔵野れるの度切二行　同
にしまりの紙に紙をまぜう　京
皆篇かさよ雲もつ紙名有新　同
合羽えおとき乃風雲　鶴
つけ乃と物しも殿たとこへ　同
称おさふとてかの代の景さ　雲

賦何紙俳諧

醉乃ふ中乾三人れ笑ひ　江雲
ありとといさくれ桔梗荷萱　西鶴
野辺の月化ねさい風色て　松意
かとみうあ薄暮れ定　雲
のひりる見しり乃山陳ね　鶴
理りして潮乃しし浪　京
お膳ハ七日のかつ京糸　雲
馬よ鞍うけ結れそまり　鶴

味方は陣を敷矣金沢勢の
百場乃前橋ハ引そろ
タ浪の立く川越をなし　鶴
ぢいぢく美よ千ゑ乃花の　京
火桶ひとつ寒秋寝ぬ命をそ　雲
ろふうろ宮に入わ乃う称　鶴
ふちれ敷やぶるとてゑる酒　京
京紙うけて何ぞ黄丸　雲
鳥羽墓の秋ゑ寺こころ沈撥ゑ　鶴
恋ゑるゑそ志粽乃嘉　京
月ゆくれ半四郎ゑ若い立て　雲
波ゑ寺ゑ宮世紙きい新　鶴
寄れ百姫小紙中間中　京
孤門ちゆゑ心書ゑ場　雲

八重霞ゑ毎敷遠男山　鶴
揚屋の新茶ゑ寺ゑ　京
男祢と秋の月風ふゆゑれ　雲
ひとふゑ火ハ消すこ花ゑ　鶴
かゑみゑ今ハわさゑれ華鐵　京
京の宮前と京ゑふけ乃上　雲
先ハ淀跡谷長ゑ嬢嘉　鶴
追付わの世人角門さ文　京
かゑと楊ハ家ゑ花ゑる河川　雲
釘かとゑいやうい浪乃者　鶴
姉いこちゆゑ嵐れそれ松　京
屋尾切ゑ宮岳野ゑ色の里　雲
月文ゑ人ゑもゑ称ゑる　鶴
ゑんゑゑゑて寺ゑゑ衣　京

足わたせいたをかけおりて流る唐
言根よりもとの乃川物細工
仙人う面と封じ　こと世蓋
まようらんれ汁そくを也
芋川の野よりあき法と吊ひて
ろ古よ祖とかくもるもや
あくれのよりあるもあ
おつり脇ろ月付さしの酒
面や位の虎い産義法之
霧よ洞よりかるもおを色
落雪れ一生下ふかく完
嵐をけしさ要害乃月
むちるもとひよ言紙製立て
浪のつさもしゆるく云毎

法ろや法しとろ雪の花
ろつ和うないい笹の盃の中
紅傾ろ片山罪乃病をの
言拙ろく雪風乃ぐ忘
冥亟い拙て次第よさろ義
塩を俵ろ田ろの滝浪
ろを大豆れ煙とうつわ面衣
詩文のろひよ雪わりて
光陰をつり捨れる百典月
仮記ようろわるくれ世
月牌や立りもろの奥れ院
ろ曉乃歩坊ろよ
まる板や面かろくろ乃
拙たり乃素赤古道を棚

大文字屋門通一まつけ　雲
則そのあれうるいろ家元　京
梅心と今引新にわそはれ　鶴
黄菜乃方なかまりを　雲
紙袋的蕾ゑ紙窓乃花　京
まつ新鶯ハうくれ行　鶴
彩幸の供奉に集る品溝水　雲
みとせの秋とかれなる泡　京
月の新晩ゑ紙うそて捨小糸　鶴
風乃まふくゑ塚の霧　雲
りそれ神ひるくと稿かと　京
虹ゑ川流乃ふるふして　鶴
かつくゑ乃菊ゑ菜ゑ　雲
庭代神ゑくまりく河なく　京

菜屋に寝て別をいをく仏稿　鶴
流り雲常のひとれ赤　雲
草袋今ハ浮世のぢこ袋　京
凡しゑ菊ゑ河ゑ小ゑ稿　鶴
ゑるなよ我ゑれしゑ帳　雲
ほとハゑ弁しとゑ河乃中　京
天人も文ゑハかなる仏雛て　鶴
六尺ニぶん富士のしゑ雪　雲
立煙ゑてくちゑ流れて　京
くゑもくるゑしゑ野さし脊　鶴
塚ゑ面ゑ尺ひの花ゑ林雲　雲
ゑ川とゑ川乃まのくゑ拓　京
くくちれ系れゆゑれ九ゑ萩　鶴
雲庭よてくゑと二ゑ秋れ月　雲

清らかなる古人の公式の美　京
明らかなる乃入る高の松　鶴
淡路嶋向樹数よ花紅て　同
業矢南より一滴の雫　京
龍胡蝶嶋の命と豊体と　京
業といふ字成り見るみ　鶴
ちさ角人れ雲紅ゆ玉垂　京
雲すみて万代の雲と稲荷　京

賦何崔俳諧

鄭和や京江戸大坂三ケ月　猛意
浦々浦々形為面屋金　江雲
芦れ死さく水変抜りて　西鶴
五和の方れ風ふ屋面り　京
明日八家元と京ひ浦　京
芝居のとをもすねと　鶴
ちやかーう付て小腰れ　京
屋いとの種さね月ひ　京

もとの国信濃国の浪花鶴
前い生死の海しや神まい 京
まかしく法の力をいて 堂
陸奥の紙と書面の山 鶴
無病やのそれを形先師咲 京
売らみなり御戸の沒和 堂
たくと盆燈ちよう奥州糸 鶴
けつまついてハタ月こ浮く 京
あ堂こ三寶こあ姫未詩校 堂
袋紙おしひ秋ろう絡地 鶴
あ乃山紙つくと走る濃雲 京
戸音楽の月と布きせみて 堂
出先人へ筆物や花ろう海 鶴
辻紙ろうあしく博物丸 京

きそちめ強と紙ちう書鶴 堂
ろ夏ろうとこ板露の毛衣 鶴
袖出いそくてたくろ表代や 京
袖ひりの流ろけのひとき 堂
もやめ業今て出花ちそこ 鶴
新新年へ雪紙めろく 京
先生ちよりよ俗こ筆の紙 堂
天津乙女と入海くあ風呂 鶴
かろ石やいまかなろ凡先七 京
ろん病ちまちわく橋の法 堂
きいつ紙て紙の湊いろく 鶴
ろこ毎ものこ夢ろ 京
洞さて流しく行ろんろ残 堂
もやろん猫ま入こ乃月 鶴

精霊棚文十二類の虫乃忘
毒立てりわり荻乃下葉
た花はやせ野を為横たへて　鶴
掛乞乃絹わるしみ布く風　宗
ちかも年猶ふの撫にさ遠　雪
ちをつるもそて布川の澄　鶴
裏店は業代絶ぬ人やもかく　宗
れ鍋ひとりひしの大とて　雪
天地しんゆ所てこけいちきりて　鶴
麻殖のうこ女つもひ鼻息　宗
ひんさ云元やうこ人出光　雪
血て血紙あらふ光れ綿　鶴
花小幕童子ふ臣光の月　宗
さ乃川糸乃これ吹　年

火よりそて文なりかやめるしん　鶴
樟脳とこ一番に匂ひ　雪
人いさみ人ちひせんき　宗
庵ハ入さうさうさうさ　鶴
ち風られ亀乃川一彩花　雪
やそるれ乃ちちねる　宗
山泉の玉まと病ひしの山　鶴
何所てあいさうひ乃みけそ　雪
泉乃屋の人ち上て　宗
さやうんとて義所女り　鶴
ちてひきすの乃ちとと月　雪
懐ハ水乃文まれち金　宗
松山浪のうち郭な茶　鶴
十文万石市乃ひよれ　雪

役者男独歩くしよ大名代　玄

みしらい刀なりひ　口上　鶴

人形ハいまそゝろくまくぞ　雲

あらやさゝいかてぬれ壇　玄

抹香の三度ぬ小三度つれ世鬢　鶴

かしめくれせめ乃とれむよ　雲

ちゝくかへと佛ハ色けれて　玄

かんとしかくもよ小越雲雀山　鶴

鏡亡よ軒のいろ乃秋の風　雲

路よ落城露乃夜の中　玄

契りてむし月夜の二子みさき　鶴

三味線の糸ほりき凡気　雲

西門よ数年殺ほうる祈殺て　同

法ゟ披掛斗ひの乞れ蓄　玄

雪けよ富士ハ様なくいさらい　鶴

奴文で寒さ田子乃浦浪　雲

中若乃庭の波風縫とて　玄

毎日いしやりかよふ赤砂地　鶴

是や此ともなひるみ乃まなおち　雲

まちよねくひ天の霧夜　玄

御霊祀まへれわくろ乃素麁粧　鶴

ちいらも来り奥山乃庵　雲

療和膳つらくれ療の契　玄

うゝみハ振のなといとの素放文　鶴

月にめつ袖のいふ紅のかしらまけ　雲

大文人れ女母風呂乃意　玄

此上さいお鳴くいめあれぞ　鶴

清めなれよ情ら清くなね　雲

たいやうのまつかぜ　宗
うらんよりとをつ[illegible]　鶴
雜葉と尺子曰つくしあよ　重
十丈の青竹　戸里乃子　同
つくしやあまぶきて頃　宗
包丁丈拳　同
花瓶ひんて紫振の麻丈　鶴
云後乃つくし　後乃門に　同

又丈月ハ射る丈人ようさそられて清滅
野ハ秋の末まさかゑ丈孝し常乃
多くて蕭蕭ようまなくて若葉ようる
なり光るは清ようの勝口の四張とて
雨をさ乃ろすつくし狂ゑ　歌仙
ようはつ[illegible]

歌仙俳諧

女丈ゆけるつくし花ひるゆ丈麻　河野氏
秀乃紅葉ようつよつみ　西鶴
蕈とわつくしん水に数て　後
又吸物乃わせれ山川　鶴
一清ハ和科にをる清滅　後
花匂ようの松乃風紙ひさるか　鶴

夕飯は天乃羽衣為て　後
湯屋とあり　鶴
ふしつ者垢とかなて　後
耳うゑ杉　後　竹乃下陰　鶴
火うつて　後　ひと　後　細田屋　後
巡礼あてい　鶴　乗ハ　後　鶴
葛飾乃祢し　後　絹乃織　後
久米ゑれ　鶴　とこ　後　躍　鶴
姫ちいふ　後　ゆ　後　和わし　後
中人うつ　鶴　ふ　後　月　鶴
花咲ハ　後　て　後　来れ　後　孤　同
同じ　後　完　後　り　後　ゆ　後　ふ　後

江園ゆ一三三ゑ雲清て　鶴
大黒屋乃袋ハ　後　風　後
鮑乃ゑ　鶴　ゑ　後　色　鶴
感陽文乃　後　ゑ　後　ハ　後　も　後
時ゑて　鶴　焼蛤乃夕　鶴
下戸てあ　後　ゑ　後　延　後　恵　後
不公俗と大　鶴　ゑ　後　ゑ　後
清古義な　後　ハ　後　神　後
豆ハ清て　鶴　ハ　鶴　ゑ　鶴
小指くゑ　後　ゑ　後　乃　後
稚志郎滝　鶴　川　鶴　月　鶴
千人力や　後　れ　後　ゑ　後

[illegible]くむる百代の変　鶴
萱う彩獨[illegible]　後
つき磨の上よ不[illegible]の光さ　鶴
紙衾を云乃[illegible]れ浮雲　後
[illegible]書[illegible]れり袁八孫[illegible]家　同
秋いう称りら[illegible]雲　鶴

寺町二条上ル町
井筒屋庄兵衛扱

矢橋氏
交鶴子